



2022年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年8月13日

上場会社名 株式会社アスモ 上場取引所 東
 コード番号 2654 URL http://www.asmo1.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長井 尊
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長 (氏名) 岡田 夏至 (TEL) 03-6911-0550
 四半期報告書提出予定日 2021年8月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第1四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第1四半期	4,702	1.1	141	△26.3	153	△25.8	69	△47.0
2021年3月期第1四半期	4,653	△6.5	191	△30.8	206	△26.8	131	△24.6

(注) 包括利益 2022年3月期第1四半期 71百万円(△33.8%) 2021年3月期第1四半期 108百万円(△32.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2022年3月期第1四半期	円 銭 5.01	円 銭 —
2021年3月期第1四半期	9.35	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第1四半期	8,785	6,122	69.2
2021年3月期	9,065	6,304	69.0

(参考) 自己資本 2022年3月期第1四半期 6,076百万円 2021年3月期 6,258百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2022年3月期	—	—	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	9,400	0.7	439	9.2	444	6.3	266	0.6	19.06
通期	18,900	0.3	830	25.6	867	14.5	522	26.6	37.40

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 —社(社名)— 、除外 —社(社名)—

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年3月期1Q	15,145,175株	2021年3月期	15,145,175株
2022年3月期1Q	1,333,913株	2021年3月期	1,186,413株
2022年3月期1Q	13,884,784株	2021年3月期1Q	14,020,662株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び実績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 9
(継続企業の前提に関する注記)	P. 9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 9
(会計方針の変更)	P. 9
(セグメント情報)	P. 10
(収益認識関係)	P. 12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における世界情勢としては、新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種のペースの加速に伴い、世界経済がこれまでのマイナス成長から回復に転じようとしています。わが国の経済においては、新型コロナウイルス感染者数の増減を繰り返す状況の中、依然として不透明な状況が続いておりますが、企業の生産活動や設備投資には持ち直しの動きが見られ、今後はワクチン接種者数の増加に伴い経済活動が回復するであろうと期待されています。このような状況にあつて、当社グループにおいても特に新型コロナウイルス感染症の影響を受けていた事業で回復の兆しが見られるなど、アフターコロナを意識できる状況になりつつあります。このような情勢の中で当社グループの強みといえる多角的な収益構造を活かすことで安定した成長を目指すことを目標としております。

当第1四半期連結累計期間においては、各事業部門がコロナ禍の収束を意識して事業に従事してまいりました。結果、前年同四半期比で売上高は増加しましたが、経常利益は減少いたしました。当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高4,702百万円（前年同四半期比1.1%増）、営業利益141百万円（前年同四半期比26.3%減）、経常利益153百万円（前年同四半期比25.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、69百万円（前年同四半期比47.0%減）となりました。売上高の増加は、新型コロナウイルス感染症により消費活動が大きく制限された前年同四半期に比べて消費が回復していることを受け、アスモトレーディング事業およびASMO CATERING (HK) 事業の売上が増加したことによるものであります。営業利益、経常利益の減少は、主にアスモ介護サービス事業における売上の減少および人件費の増加等によるものであります。売上高営業利益率は前年同四半期より1.1ポイント減少して3.0%となりました。今後におきましては、アフターコロナにおける収益体制をしっかりと見据え、売上高の増加、売上高営業利益率の改善に加え、グループ事業の成長に邁進してまいります。

セグメントごとの状況は次のとおりであります。

セグメント名称 (セグメントに該当する会社)	主要な事業の内容	
アスモ事業 (株式会社アスモ)	グループ会社の統制・管理、不動産賃貸	
アスモトレーディング事業 (株式会社アスモトレーディング)	食肉の輸出入、食肉及び食肉加工品の販売	
アスモフードサービス事業 (株式会社アスモフードサービス) (株式会社アスモフードサービス首都圏) (株式会社アスモフードサービス東日本) (株式会社アスモフードサービス中日本) (株式会社アスモフードサービス西日本)	高齢者介護施設等における給食の提供	
アスモ介護サービス事業 (株式会社アスモ介護サービス) (株式会社アスモライフサービス)	訪問・居宅介護事業所の運営、有料老人ホームの運営	
ASMO CATERING (HK) 事業 (ASMO CATERING (HK) CO., LIMITED)	香港における外食店舗の運営、食品加工販売	
その他	(サーバントラスト信託株式会社)	管理型信託商品の販売
	(アスモ少額短期保険株式会社)	少額短期保険商品の販売
	(ASMO CATERING (TAIWAN) COMPANY LIMITED)	台湾における外食店舗の運営 ※事業を休止中

① アスモトレーディング事業

アスモトレーディング事業におきましては、新型コロナウイルス感染症による再度の緊急事態宣言・蔓延防止等重点措置の発令により、外食産業では営業停止・自粛・時短営業が繰り返された結果、マーケットに多少の混乱が見られました。食肉市場では、他国生産地の先物価格が急騰しましたが、メキシコ産商品は比較的安定した購買価格を維持できたことにより優位性を保ちつつ供給ができた結果、徐々に業績が向上いたしました。

通販事業においても巣ごもり需要から安定的な販売が継続しており、中元、お盆商戦も堅調に需要を捉えることができると考えられます。経費面では、コロナ禍による人件費・出張旅費代等の減少が利益向上に寄与しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は803百万円（前年同四半期比36.3%増）、セグメント利益（営業利益）は34百万円（前年同四半期比589.6%増）となりました。

今後、緊急事態宣言、蔓延防止等重点措置の解除とワクチン接種率の向上に伴い外食の需要も回復すると思われませんが、アフターコロナの新しい生活様式における顧客ニーズを捉え、需要が増えている業種・業態向けの販売を重視するとともに、価格を含めた商品の優位性をアピールし、商品と販路の拡充に専念して常に顧客満足度の向上と利益を追求してまいります。

② アスモフードサービス事業

アスモフードサービス事業におきましては、原材料費や物流費の高騰による一部食材の原価上昇もありましたが、価格の安定した食材を使用した献立に変更することで対応を行ってまいりました。また、現在もなお長期化する新型コロナウイルス感染症対策に伴うマスクやその他衛生用品の購入による継続的な支出は続いておりますが、コストの上昇を最小限に止められるよう、調達する食材の再検討やメニューの開発、これまで行ってまいりました様々なイベントおよび行事において培ってきた「食」のノウハウを活用することで、提供商品（給食）における付加価値を創出し、他社との差別化を図り、クオリティの向上に取り組んでいくとともに、従業員への感染防止および感染予防のさらなる徹底を行い、お客様への安全でおいしいお食事の提供に繋げてまいります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,896百万円（前年同四半期比0.2%増）、セグメント利益（営業利益）は121百万円（前年同四半期比36.4%増）となりました。また、受託施設件数については、当第1四半期連結会計期間末現在、253施設（前年同四半期末は255施設）となりました。

③ アスモ介護サービス事業

介護業界全体としては、恒常的な人手不足と、それに伴う人件費の上昇に加え、長期化する新型コロナウイルス感染症の影響によるご利用者様の減少で、足元・先行きとも厳しい状況にあります。

そのような状況の中、感染対策の徹底を行うことにより、現在に至るまで新型コロナウイルス感染症における大きな問題が起こることなく、運営を行ってまいりました。しかしながら、当第1四半期連結累計期間に入ってもご利用者様の減少は続いており、売上が減少しております。利益においても、目先は厳しい数字となりますが、アフターコロナの大きな需要に備え、引き続き職員の定着率向上に向けた取り組みと、積極的な新規採用にも注力しております。

これにより当第1四半期連結会計期間末現在、訪問介護事業所37事業所（前年同四半期末は36事業所）、居宅介護支援事業所12事業所（前年同四半期末は12事業所）となり、支援させていただいておりますご利用者様（※）は1,996名（前年同四半期末は2,081名）となりました。また、有料老人ホーム6施設（前年同期末は6施設）のご入居者様は313名（前年同四半期末は327名）となりました。（※）介護タクシーでの介護保険利用者を除く

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,453百万円（前年同四半期比14.0%減）、セグメント利益（営業利益）は62百万円（前年同四半期比59.3%減）となりました。

今後も引き続き感染対策の徹底と、アフターコロナの需要に対応するための準備を行い、介護サービスの更なる質の向上を図ってまいります。

④ ASMO CATERING (HK) 事業

香港内における新型コロナウイルス感染者の拡大はほぼ抑え込まれておりますが、関係が深く往来の多い東南アジア各国の感染拡大が止まらないことにより香港当局の緊張感はいまだに高く、市中感染がほぼゼロにも関わらずレストランに対する規制（1テーブル4名以下、客席稼働率50%以下）の解除には至っていない状況にあります。当社では、比較的低価格で食事を提供し、日常的に利用されることが多い店舗である『とら蔵』、『秀吉』、『北の坂』などでは苦戦が続いておりますが、比較的高価格で食事を提供している『神楽屋』などは業績が回復しつつあります。また、食品加工販売部門では引き続き顧客が増加しており、好調を維持しております。飲食店舗部門の本格的な回復は中国本土および周辺諸国との往来の再開を待つ必要があるため、それまでは好調な食品加工販売部門を軸に業績の回復に努めてまいります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は441百万円（前年同四半期比21.6%増）、セグメント損失（営業損失）は4百万円（前年同四半期はセグメント損失18百万円）となりました。

⑤ その他の事業

その他セグメントに含めておりますサーバントラスト信託株式会社は管理型信託事業を展開しており、入居一時金保全信託、法人・個人向けの金銭管理信託、および不動産管理信託を主力とした信託商品の販売を行っております。同じくその他セグメントに含めておりますアスモ少額短期保険株式会社は、少額短期保険事業を展開しており、企業の従業員への福利厚生制度としての生命保険商品、および高齢者施設入居者のケガや家財の補償、および介護サポートを目的とした損害保険商品等を販売しております。コロナ禍の現在、いずれの事業においても依然として対面営業を行う機会の確保が難しく、新規受注が伸び悩んだことに加え、サーバントラスト信託株式会社においては前期の大口契約喪失による売上減少の回復に努めてまいりましたが、その他セグメント全体では減収減益となりました。

以上の結果、その他セグメントにおける当第1四半期連結累計期間の売上高は106百万円（前年同四半期比9.1%減）、セグメント損失（営業損失）は12百万円（前年同四半期はセグメント利益11百万円）となりました。

超高齢化社会を迎え、高齢者の財産管理や資産承継、あるいは高齢者が安心して暮らせるためのニーズが高まりつつある日本社会において『信託制度』『少額短期保険』の需要が益々高まっていくものと予想されるため、今後もシルバーマーケットの拡大とともに成長が期待できるものと考えております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における総資産は8,785百万円となり、前連結会計年度末に比べ280百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が152百万円、預け金が80百万円、保証金が46百万円、繰延税金資産が70百万円減少し、受取手形、売掛金及び契約資産が79百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は2,662百万円となり、前連結会計年度末に比べ98百万円減少いたしました。これは主に支払手形及び買掛金が29百万円、未払金が74百万円増加し、賞与引当金が87百万円、未払消費税等76百万円、未払法人税等が59百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は6,122百万円となり、前連結会計年度末に比べ181百万円減少いたしました。これは主に利益剰余金が103百万円減少し、自己株式が80百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は69.2%（前連結会計年度末は69.0%）となりました。

新型コロナウイルス感染症の影響による一部の事業の売上減少や費用増加により前年同期に比べて利益が減少しておりますが、当社グループの財政状態に大きな影響を与えるものではございません。また、それら以外は納税、賞与、配当等を受けての現金及び預金の減少が限定的で、順当な増減であると認識しております。

資本の財源につきましては、当社グループの運転資金・設備投資について、一部連結子会社で一時的な借入を行うことがあります。基本的には自己資金により充当しております。当第1四半期連結会計期間末の有利子負債残高は、短期借入金12百万円とリース債務203百万円の合計215百万円であり、前連結会計年度末と比較して11百万円減少しております。

現金及び預金の当第1四半期連結会計期間末残高は4,626百万円であり、資金の流動性は十分に確保できており、小規模ベースのM&Aや隣接事業への拡大についても対応できる水準であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点における通期の連結業績予想及び配当予想は、2021年5月14日に公表いたしました予想に変更はありませんが、日本経済及び世界経済に多大な影響を与えている新型コロナウイルス感染症の動向によっては、経済状況や事業環境の変化等様々な要因により業績が予想と異なる可能性があります。なお、新型コロナウイルス感染症の業績への影響については、可能な限り上記の業績見通しに織り込んでおりますが、今後の動向の変化に応じて適時に開示してまいります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,778,576	4,626,223
受取手形及び売掛金	2,058,716	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	2,138,433
商品	256,902	279,099
貯蔵品	12,413	12,363
その他	678,021	579,769
貸倒引当金	△133,358	△129,220
流動資産合計	7,651,271	7,506,669
固定資産		
有形固定資産		
その他(純額)	261,323	250,249
有形固定資産合計	261,323	250,249
無形固定資産		
その他	30,582	26,070
無形固定資産合計	30,582	26,070
投資その他の資産		
その他	1,461,044	1,340,854
貸倒引当金	△338,442	△338,385
投資その他の資産合計	1,122,601	1,002,468
固定資産合計	1,414,507	1,278,787
資産合計	9,065,779	8,785,457

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	510,122	539,600
短期借入金	10,330	12,560
未払法人税等	70,723	11,224
賞与引当金	220,273	133,031
その他	1,570,598	1,597,353
流動負債合計	2,382,048	2,293,769
固定負債		
退職給付に係る負債	212,123	213,333
その他	167,303	155,565
固定負債合計	379,427	368,899
負債合計	2,761,475	2,662,669
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,323,272	2,323,272
利益剰余金	3,905,879	3,802,397
自己株式	△75,245	△155,647
株主資本合計	6,153,907	5,970,023
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	365	59
為替換算調整勘定	114,016	114,429
退職給付に係る調整累計額	△10,238	△7,679
その他の包括利益累計額合計	104,143	106,810
非支配株主持分	46,252	45,954
純資産合計	6,304,303	6,122,788
負債純資産合計	9,065,779	8,785,457

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)
売上高	4,653,639	4,702,626
売上原価	3,705,151	3,802,954
売上総利益	948,487	899,672
販売費及び一般管理費	756,928	758,397
営業利益	191,558	141,274
営業外収益		
受取利息	1,629	1,671
物品賃貸料収入	1,589	1,549
為替差益	—	175
助成金収入	24,914	9,858
その他	670	554
営業外収益合計	28,803	13,809
営業外費用		
支払利息	1,181	1,026
支払手数料	—	401
為替差損	1,067	—
貸倒引当金繰入額	11,156	85
その他	99	14
営業外費用合計	13,505	1,527
経常利益	206,857	153,556
税金等調整前四半期純利益	206,857	153,556
法人税、住民税及び事業税	7,902	8,657
法人税等調整額	67,530	75,806
法人税等合計	75,432	84,463
四半期純利益	131,424	69,092
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	401	△410
親会社株主に帰属する四半期純利益	131,023	69,503

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)
四半期純利益	131,424	69,092
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	△90	△305
為替換算調整勘定	△8,773	525
退職給付に係る調整額	△14,071	2,559
その他の包括利益合計	△22,935	2,779
四半期包括利益	108,489	71,871
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	110,040	72,169
非支配株主に係る四半期包括利益	△1,551	△297

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

当会計基準の適用により、一部の連結子会社において、当第1四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に与える主な影響は以下のとおりであります。

- ・ 顧客への販売対価の一部に第三者のために回収する金額が含まれる取引について、従来顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、当該対価の総額から第三者のために回収する金額を除いた純額で収益を認識する方法に変更しております。
- ・ 返還不要の入居一時金について、従来は一時点で収益を認識する方法によっておりましたが、一定の期間にわたり収益を認識する方法に変更しております。

なお、上記の他、「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日)第98項に定める代替的な取扱いを適用し、商品の国内の販売において、出荷時から当該商品の支配が顧客に移転される時までの期間が通常の間である場合には、出荷時に収益を認識しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、当第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は231,794千円減少し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ5,132千円増加しております。また、利益剰余金期首残高は33,397千円減少しております。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、当第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第1四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	アスモ 事業	アスモトレ ーディング 事業	アスモフー ドサービス 事業	アスモ介護 サービス 事業	ASMO CATERING (HK) 事業	計
売上高						
外部顧客への売上高	1,188	589,841	1,892,167	1,690,120	363,519	4,536,837
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	5,898	61,704	—	—	67,602
計	1,188	595,739	1,953,872	1,690,120	363,519	4,604,439
セグメント利益又は損失(△)	△48,857	5,075	89,394	153,599	△18,805	180,406

(単位:千円)

	その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高				
外部顧客への売上高	116,801	4,653,639	—	4,653,639
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	67,602	△67,602	—
計	116,801	4,721,241	△67,602	4,653,639
セグメント利益又は損失(△)	11,015	191,421	137	191,558

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、管理型信託事業および少額短期保険事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	180,406
「その他」の区分の利益	11,015
セグメント間取引消去	137
四半期連結損益計算書の営業利益	191,558

II 当第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					計
	アスモ事業	アスモトレーディング事業	アスモフードサービス事業	アスモ介護サービス事業	ASMO CATERING (HK) 事業	
売上高						
外部顧客への売上高	1,194	803,703	1,896,121	1,453,398	441,997	4,596,415
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	9,433	61,077	—	—	70,511
計	1,194	813,137	1,957,198	1,453,398	441,997	4,666,926
セグメント利益又は損失(△)	△61,083	34,998	121,938	62,544	△4,427	153,970

(単位:千円)

	その他(注)	合計	調整額	四半期連結損益計算書計上額
売上高				
外部顧客への売上高	106,211	4,702,626	—	4,702,626
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	70,511	△70,511	—
計	106,211	4,773,137	△70,511	4,702,626
セグメント利益又は損失(△)	△12,764	141,206	67	141,274

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、管理型信託事業および少額短期保険事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	153,970
「その他」の区分の損失(△)	△12,764
セグメント間取引消去	67
四半期連結損益計算書の営業利益	141,274

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の「アスモ介護サービス事業」の売上高は231,794千円減少、セグメント利益は5,132千円増加しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第1四半期累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント					
	アスモ事業	アスモトレーディング事業	アスモフードサービス事業	アスモ介護サービス事業	ASMO CATERING (HK) 事業	計
食肉販売	—	689,500	—	—	—	689,500
加工商品の販売	—	114,203	—	—	—	114,203
給食提供サービス	—	—	1,896,121	—	—	1,896,121
介護サービス	—	—	—	1,245,196	—	1,245,196
運営する介護施設でのサービス	—	—	—	96,932	—	96,932
飲食店舗(香港)	—	—	—	—	302,699	302,699
食品加工販売(香港)	—	—	—	—	129,258	129,258
その他	—	—	—	25,858	10,039	35,898
顧客との契約から生じる収益	—	803,703	1,896,121	1,367,987	441,997	4,509,809
その他の収益	1,194	—	—	85,411	—	86,605
外部顧客への売上高	1,194	803,703	1,896,121	1,453,398	441,997	4,596,415

	その他(注)	合計
食肉販売	—	689,500
加工商品の販売	—	114,203
給食提供サービス	—	1,896,121
介護サービス	—	1,245,196
運営する介護施設でのサービス	—	96,932
飲食店舗(香港)	—	302,699
食品加工販売(香港)	—	129,258
その他	5,134	41,032
顧客との契約から生じる収益	5,134	4,514,944
その他の収益	101,076	187,682
外部顧客への売上高	106,211	4,702,626

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、管理型信託事業および少額短期保険事業を含んでおります。